

今回の連載テーマ

おすすめの小説紹介します

今回は、図書委員おすすめの小説を紹介します。
紹介した本は、カウンター横のスペースに展示してあります。
この「読書の秋」にぜひ読んでみてください。

<本の紹介>

『掟上今日子の備忘録』 西尾維新/著 講談社

今回紹介する本は、『掟上今日子の備忘録』です。

どんなことでも一日で、寝て起きたらすべて忘れてしまう忘却探偵、掟上今日子と、重度の巻き込まれ体質の隠館厄介。二人が繰り広げる推理ストーリー。

この作品は、私に小説の面白さを今まで以上に感じさせてくれた本です。特にこの本で面白いと感じたところは、主人公の掟上今日子です。忘却探偵という今までにない設定やこのキャラの性格などが新鮮でとても興味をそそられ、ずばずばと沼にはまっていききました。

この本は文の書き方が堅苦しくなく、結構読みやすい本です。推理小説が好き！という人には特におすすめですが、そんなこと関係なく、たくさんの人に読んで欲しい一作です。

(担当:1E)

著作権法上
書影削除

<本の紹介>

『空の境界』シリーズ 奈須きのこ/著 講談社

私が紹介する本は『空の境界』です。

この本は、主人公の一人である両儀式が二年間の昏睡から目覚めたときに自身の記憶喪失と引き換えにあらゆるモノの死を視ることのできる“直死の魔眼”を手に入れ、様々なモノと戦う話です。

爽快なバトルアクションや主人公達の恋愛の行く末などのほかにも、とても細かい描写など見どころが盛りだくさんです。上中下巻で構成されています。私の

個人的におすすめの巻は下巻です。

皆さん是非読んでみてください。

(担当:1A)

著作権法上
書影削除

<本の紹介>

『ストロベリーナイト』 誉田哲也/著 光文社

僕が紹介する本は『ストロベリーナイト』です。

作者が自ら創り出したキャラクター、小説世界に作者が心底惚れ込み、楽しんで書いているのであろうことが読む側にも伝わる。そんな熱気、躍動感が全編にみなぎっているのがこの小説の最大の魅力です。

この本は、僕が初めて読んだ小説であり、一番好きな作品です。ちょっと引いてしまうような残酷な描写や、殺人者になってしまった者の悲しくなるような過去がとても印象的です。

皆さんも是非一度読んでみてください。

(担当:2E)

著作権法上
書影削除

<第4回教養講座振り返り>

教養講座で募集した質問に回答をいただきました！
抜粋して紹介します。

Q. 博物館の魅力は何ですか

A. ものを様々な角度から観られることかな、と思います。

あとは、展示物は、もちろんそれ自体の形、内容があるのですが、展示には資料の価値付けがともないます。なぜその展示を出陳したのか、どういう資料として扱っているのか、という担当者のメッセージを読み取ったり受け取ったりするのも面白いのかな、と担当展示をしてみてもいいと思います。

Q. 働いていて何が特に楽しいと感じましたか

A. 学芸員は資料ありきの業務なので、なにか扱う資料が出てきたとき、様々な資料と突き合わせて、資料に対して、これまで他の人が注目しなかった視点を発見し、それをまとめていくのが楽しかったですね。(むしろ学芸員というより、研究者的な発想かもしれません。)あと、ある資料を展示で言及したところ、その資料の存在を介して人とのつながりを作れたことがあります。それはうれしかったですね。

第5回 図書委員会主催 教養講座

「シドニーのクリスマスとニューイヤー」

参加者募集中

今年度最後となる講座では、本校 ALT のリアン先生にシドニーのクリスマスとニューイヤーについてお話ししていただきます。日本とは季節が真逆の国ではどのように過ごしているのでしょうか？後半では、クリスマスカードを作るワークショップを開催します。

皆さんの参加お待ちしております。



日時:12月10日(水) 16:00~17:00

講師:リアン先生 会場:図書館

持ち物:筆記用具、はさみ、のり

参加申し込み:Classi または図書館カウンターの参加用紙にご記入ください